

普及活動情勢報告（令和2年4月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

ユズ圃場の電子マップ作り始めます ～ユズ圃場のデータ整理～



圃場の管理状況を説明する
園主

JA高知県高西地区津野山営農経済センターの管内では、平成20年頃から加工用ユズの定植が盛んに行われるようになりました。現在樹齢10年を超えるユズ園が増える一方で、高齢化により管理が困難になる園が出始めています。そこで当課はJAと協力して園地情報を電子化することにしました。あらかじめ電子地図上に園地の場所をポインティングしておき、3月26日に一部地域で手分けして現地を確認しました。

今後、過去に実施したアンケートで栽培継続が困難と答えた方などを対象に、園主の意向と圃場の状態を踏まえて関係機関を交えた話し合いを行い、園地管理の仕組みづくりに向けた支援をしていきます。

IPM技術の確立による難防除害虫の被害低減 ～ミョウガ天敵実証ほ調査～



天敵（チリカブリダニ）

当課では、JA土佐くろしお、農業技術センターとともに施設ミョウガの難防除害虫であるハダニの対策として、天敵を活用した防除技術の確立に取り組んでいます。

施設ミョウガの主要害虫であるハダニは、地域による差はあるものの登録農薬の効きが悪くなっている状況です。天敵を放飼した調査区ではハダニの発生が抑えられています。収穫終了まで防除効果を検討し、IPM技術マニュアルの改訂を行う予定です。

現在、管内ではミョウガ栽培面積の約7割で天敵の導入が進んでいますが、今後も関係機関と協力してミョウガの安定生産と増収のための支援を行っていきます。

梶原町ワイン事業が本格的にスタート ～ぶどう苗の植付～



植付の様子

令和元年度に、梶原町・井上石灰工業・井上ワイナリーの三者でワイン造りに関する包括連携協定が締結されました。

これまで当課は、三者のスムーズな連携のためのコーディネートが必要と考え、視察や情報共有できる場の提案・調整、ぶどう技術資料の情報提供などを行いました。

そして、令和2年4月17日に、2品種（94本）が植付され、本格的にワイン事業がスタートしました。

今後も引き続き、三者の支援を行うとともに、植付したぶどうの生育状況に応じた栽培指導を行っていきます。

津野山地域の夏秋栽培が始まりました ～米ナス・小ナス・甘長トウガラシ苗の受け渡し～



定植後の様子

JA高知県高西地区津野山営農経済センターでは、3月25日から夏秋栽培用苗の受け入れ・受け渡しを始めており、4月8日は米ナス・小ナス・甘長トウガラシの苗が到着し、農家への引き渡しが行われました。

本年度の苗は、全体的に生育が良く、病虫害も見受けられない状態でした。苗を引き取りに来た生産者からは、「苗はよくできていると思う。これから夏に向け大事に育てていきたい。」という感想を得られました。

当課は、これから始まる夏秋野菜の栽培技術の向上や経営目標達成に向けて支援を行っていきます。